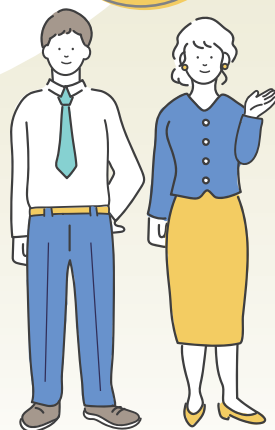


今が変え時!

学校に希望を。

変化が
はじまった



高まる世論のなか、政府は2024年度中の給特法の見直しを表明。全国の小中学校の校長会は「定数の改善を図り、授業の持ちコマ数軽減」を要求するようになりました。始まった変化を本当の変化へ。あなたのアクション、お願いします。

子どもの育つ権利を保障する

全国署名

をする・広げる

署名項目

- 1 教員にも残業代を支給すること
- 2 学校の業務量に見合った教職員を配置すること
- 3 これらを実現すべく教育予算を増額すること

呼びかけ人 教員の長時間勤務に歯止めをかけ、豊かな学校教育の実現を求める教育研究者有志



全国署名を呼びかけた記者会見(2023年5月)
呼びかけ人は、小玉重夫・東京大学教授(日本教育学会会長)、尾木直樹・法政大学名誉教授など、様々な立場の20名の研究者のみなさん。

≡ ネットでも
紙でもOK

くわしくは、こちら▶



SNSで広げる

#せんせいふやそう

#このままでは学校が持たない

X(旧Twitter)などに投稿しよう

つながる&受けとる

イベント情報、各地の様子、この問題の動向を発信します。みなさんからも発信ください。

X(旧Twitter)▶



メールニュース
お送りします
申し込み▶



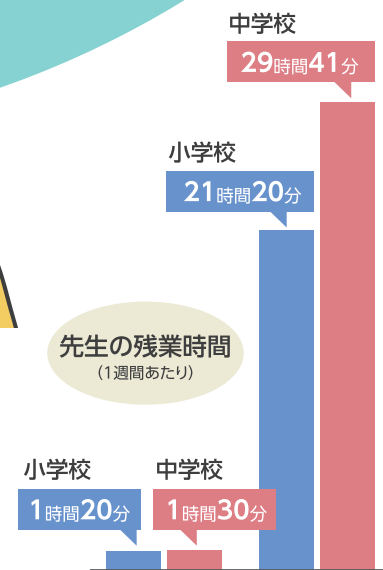
このままでは 学校が もちません!

みんなで何とかしませんか。

子どものために



先生たちの忙しさに歯止めがかかりません。平均で連日12時間近く勤務し、土日も学校に。病気になる先生が増え、教育に志のある学生も先生になることをためらうようになりました。各地に「担任がない」などの教員不足が広がっています。子どもと社会の一大事です。みんなで何とかしませんか。



先生の残業時間
(1週間あたり)

昔
1966年

今
2022年

国の「全国教員勤務実態調査」より

発行 学校に希望を!長時間労働に歯止めを!ネットワーク

呼びかけ ● 全日本教職員組合、全日本退職教職員連絡協議会、新日本婦人の会、教組共闘連絡会

連絡先「ネットワーク事務局」 ● Mail: gakko.kibou.hadome@gmail.com

● 住所: 〒102-0084 東京都千代田区二番町12-1 全国教育文化会館3階気付

子どもの育ちを 守りたいのです



異常な長時間労働は、授業準備と子どもと向き合う時間を先生から奪います。私たちは、子どもの育ちを守りたいのです。

もっと先生に質問したい、
もっと先生に相談したい。
でも、先生忙しそうだし、
わたしたちがガマンしなければ先生たちが困るな…。



忙しくなると、子どものことを待てなくなる。
子どもは試行錯誤を
通じて成長するのに。



きちんと準備できた授業は、子どもの反応が違う。授業準備の時間が本当に欲しい!



この働かせ方 アウトです!

先生の人数が、 仕事に比べ少なすぎる



以前は、1日8時間労働に収めるため、勤務時間の半分で授業し、残りの半分で授業準備など他の全ての仕事をするルールでした。今は、勤務時間のほとんどが授業になり、多くの仕事を時間外にやらざるを得ません。不登校への対応など仕事が複雑にもなっています。国や自治体が「改革」「改革」と言って意味のない仕事をふやした問題もあります。

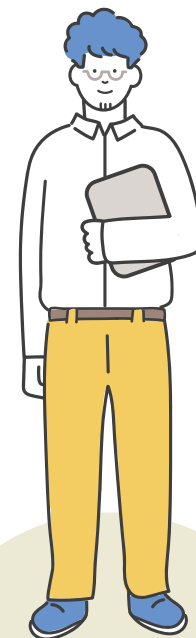
“定額働かせ放題”の、 残業代ゼロ制度



公立学校の先生はいくら残業しても残業代が出ないと法律※で決まっています。残業代は割増賃金が義務づけられ、労働時間を抑えるための世界共通の制度です。先生に残業代が払われれば年間で9000億円! ただし、先生は残業代が欲しいではありません。長時間労働に歯止めをかける労働基準法通りの制度がほしいのです。

※公立学校教員給与特別措置法(給特法)

だから、仕事にみあって教員をふやし、
残業代ゼロをやめてほしいのです



子ども一人ひとりに 寄り添う学校に



日本女子大学教授
清水 睦実 さん

学校や教師というのは、子どもたちの置かれた状況に寄り添って未来をともに考えてくれるパートナーであるはずですが、先生たちはこうした重要性を「わかっているけど、それをする時間的余裕がないんです」と語ります。

教師たちの置かれた労働環境を変えていかないことには、子どもたちがもっと追い込まれていきます。

(「新婦人しんぶん」2023年7月15日付より)